

令和 3 年度 健康くまもと 21 推進会議歯科保健部会 議事録要旨

開催日時：令和 3 年 8 月 27 日(金) 14:00～15:30

開催方法：チームスによるオンライン会議

出席委員：16 名

井手 州子、一安 勝、岡崎 淳司、工藤 壽子、佐藤 成美、澤村 裕美子、田上 敬祐、
中島 花江、中村 好郎、中山 秀樹、濱田 泰之、平川 恵子、藤高 ちよ、船田 裕介、
三浦 弘文、宮本 格尚（五十音順・敬称略）

次第 1 開会

2 挨拶 伊津野保健衛生部長、中山秀樹委員(部会長)

3 議事

議題1 第3次熊本市歯科保健基本計画「各ライフステージにおける対策の推進」
の令和 2 年度の進捗と令和 3 年度の取組について

議題2 第3次熊本市歯科保健基本計画「歯と口腔の健康づくりを支え・守るた
めの環境づくり」の令和 2 年度の進捗と令和 3 年度の取組について

報告 新型コロナウイルス対策に関連した取組について

4 閉会

議事(要旨)

【議事進行】 部会長 中山委員

議題1 第3次熊本市歯科保健基本計画における「各ライフステージにおける対策の推進」の
令和 2 年度の進捗と令和 3 年度の取組について

〈事務局〉 資料説明

【審議】

○胎児期及び妊娠期、乳幼児期について

≪宮本委員(市歯科医師会)≫

・妊婦歯科健診を現在、行政と歯科医師会とで分担して行っている。先日、熊本県母子衛生学会で
発表する機会を得たが、その中で、県内の郡市、あるいは政令市の中で、妊婦歯科健診を行って
いる所は、ほとんどないことを初めて知った。妊婦歯科健診の現状(受診率等)と受診率向上のため
に、行政が具体的にどのようなアプローチを行っているか教えてほしい。

・妊娠中の喫煙が微増していることは、非常に由々しき問題だと思うのでこれに対する対策も必
要だと思うがいかがか。

→〈事務局〉

担当の子ども政策課が所用により欠席しておりますので後日回答いたします。

〈子ども政策課回答〉

・妊婦歯科健診の受診率向上のために、区役所で親子(母子)健康手帳交付の際に、妊娠中はつわ

りやホルモンバランスの変化の影響で歯周炎やむし歯が進行しやすいこと、また、口腔環境の悪化は生まれてくる赤ちゃんに影響が出ることがあることから、歯科健診が必要であることを伝え、区役所での歯科健診、または委託歯科医院での歯科健診のいずれかを、体調に合わせて受診するよう案内しております。

・妊婦の喫煙については、親子(母子)健康手帳交付の際に、妊婦自身及び家族の喫煙状況を聴き取り、喫煙により早産や低体重児出産等、妊娠や胎児に及ぼすリスクが生じる可能性があることについて説明を行い、赤ちゃんとの暮らしを考え、この機会に家族みんなで禁煙について考えていただくようお願いしております。

○学童期、中・高生期について

≪宮本委員(市歯科医師会)≫

最初に歯科にかかるのは、早くて2歳前後で、1歳6か月や3歳児健診での口腔内の状況を改善するには産婦人科や小児科のご協力が不可欠である。以前の報告では、そのあたりの協力を得られていたが、それらの現状を教えてください。

→〈健康づくり推進課〉

7か月健診を実施する医療機関において、むし歯のない3歳児を90%にする「歯っぴー39(サンキュー)チャレンジ」リーフレットや無料歯科健診券付き啓発カードの配布による啓発をしております。(議題1 資料5 ページ 6)

≪宮本委員(市歯科医師会)≫

小学校におけるフッ化物洗口事業については、今年が最終年度で全校実施の予定であったが、コロナ禍で実施が難しくなっている所もあるかと思われる。事業の進捗状況と今後の予定を教えてください。

→〈健康づくり推進課〉

92校のところ11校の実施と大変厳しい状況である。今後は蔓延防止措置、分散登校等の状況を踏まえ、2学期の実施について関係団体や関係課である教育委員会と情報共有・協議してまいります。(議題1 資料12 ページ)

≪宮本委員(市歯科医師会)≫

コロナで委託を受けている8020推進員等外部の者が学校内に入ることがなかなか難しい状況であるが、その中での学校現場の対応や協力に関して教育委員会の方の考えをお聞きたい。フッ化物洗口が、戻すばみにならないようお願いしたい。

→〈健康教育課〉(当日は欠席)

コロナ禍であっても継続して実施している学校や中断後レベルの状況により再開するという学校があります。市教育委員会として今後も継続していくことには変わりはありませんが、それぞれの学校の事情等が異なることから、実施・中断等の判断については学校の判断を尊重したいと考えています。

≪宮本委員(市歯科医師会)≫

現在、コロナ禍で歯みがき巡回指導が、昨年度及び今年度も中止を決定した。今後、リモートでの実施等ができないか、関係各位と検討していきたいと考えているがどうか。(議題1 資料12 ページ)

ージ ②)

→〈健康教育課〉(当日は欠席)

昨年度は中止、今年度も 6 月に引き続き 11 月も中止となっているため、リモートでの実施について引き続きご検討をお願いいたします。(議題 1 資料 11 ページ ②)

○成人期について

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

成人歯科検診として 40・60 歳の節目の歯周病検診に協力しているが、受診率がなかなか上がらない。歯周病検診の現状と、受診率向上に対する行政の今後のアプローチを教えてください。

→〈健康づくり推進課〉

歯周病検診は受診率が低い状況であるため受診率向上に向け、令和 2 年度から大腸がんの個別郵送検診において案内ハガキに併記した個別受診勧奨に加え、今年度からは特定健診受診勧奨の個別通知に併記した受診勧奨を実施し、引き続き受診率向上に向け取り組んでまいります。(議題 1 資料 18 ページ ①)

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

先日、学会の学術大会にリモートで参加したが、テーマが口腔がんで、ステージ4から復帰されているタレントの堀ちえみさん等を招いてのシンポジウム等があった。8 月 24 日に健康くまもと 21 推進会議がん部会があったが、残念ながら口腔がんが対象に入っていない。口腔がんは視診で発見しやすい数少ないがんであり、罹患すると治療後の生活の質の低下が著しいので、ぜひ、口腔がん検診を取り入れてもらいたい。専門である中山教授と行政にご意見を伺いたい。

→〈中山部会長〉

私も全くもって宮本委員の意見と同じで、進行がんになるとなかなか治療が難しく、国策であるがんの基本対策法の中で進行がんの生存率がなかなか伸びないということで、予防に国の政策がシフトしている。その点を踏まえても非常に重要なことと思っているが事務局の方いかがか。

→〈健康づくり推進課〉

本市が実施しておりますがん検診は国のがん検診の指針に推奨されている 5 つ(肺・胃・大腸・乳・子宮頸がん)を実施しており、口腔がんの追加については国や他都市の動向を注視しながら、必要に応じ検討してまいります。

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

口腔がん検診は、妊婦歯科健診のように熊本市の独自の政策としてもできないことはないのではないかと。また、検診は視診でほとんどできるため、特殊な薬とか器材が不用でコストはあまりかからずできると思うからぜひとも取り組みをお願いしたい。

〈中山部会長〉

私も同じである。

○高齢期について

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

日本が超高齢社会に突入する中で、介護の問題が大きくなってきているため、介護になる前のフレイルの段階でアプローチすることが大切である。全身のフレイルの前に口腔内のフレイルが起

きることが分かっているので、この段階でアプローチすることが効果的であるため啓発を行ってほしい。

→〈高齢福祉課〉

高齢者のフレイル対策については、口腔・運動・栄養改善を合わせて啓発をさせていただいております。口腔については、チラシ『オーラルフレイル』を予防し、口腔機能を維持しましょう』を作成し、お口の体操を毎日の習慣にということで、噛む力を強くする体操・舌の体操・唾液腺マッサージについて具体的に啓発しております。現在コロナ禍のため、自宅でできるようにホームページにも掲載をさせていただいております。(別添 1)

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

現在、後期高齢者歯科健診が行われている中に、フレイルの検査も盛り込まれているが、成人歯科検診と同じで、検診率が上がっていないため、そこへのテコ入れもお願いしたい。

→〈国保年金課〉

超高齢化社会で要介護者がさらに増加することが予想されるため医療費の削減及び適正化に向けて、介護になる前のフレイルの対策が非常に大事になってまいります。現在、国保年金課では後期高齢者医療に携わっており、後期高齢者医療加入者へ健診・歯科口腔健診を実施しております。毎年、受診券を後期高齢期の方に送付し、少しずつですが着実に増加傾向にあります。(議題 1 資料 20 ページ 4、22 ページ 2)

令和 3 年度は国から新たな取組として高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施について、フレイル対策に包括支援センターの方々と共に取り組んでまいります。新たな取組のため、まずモデル事業で、先ほど宮本委員がおっしゃった問診票を活用し、フレイル対策を推進していくことを考えております。

今後、受診率向上に向けて、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施と現在実施しております後期高齢者健診・歯科口腔健診の受診勧奨等を通して、取組をどんどん進めていきたいと考えております。(議題 1 資料 22 ページ 4)

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

平成元年に始まった8020運動は達成者が5割を超えてきた。8020を達成することは非常に素晴らしいことであるが、歯が多く残っているがゆえに、ケアや通院が難しくなった場合、対応が非常に困難なケースが多くなった。高齢者は、唾液が減り、歯肉が下がることにより、歯の根元がむし歯になりやすいため、予防や細かい口腔ケアが必要であり、乳幼児・小学生と同様にフッ化物の応用も大事と啓発をしてまいりたい。行政においても啓発をお願いしたい。

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

現在、地域ケア会議に毎回出席しているが、口腔内の情報が非常に少なく、判断やアドバイスがしにくい状況なので、改善をお願いしたい。

→〈介護保険課〉

地域ケア会議とは、高齢者の個別ケースにおいて活動を阻害している要因について、各職種の専門的な視点から検討を行い自立支援や重症化防止の実践に繋がる助言をお願いしているもので、開始後 3 年が経過しており、今後の会議について先日地域包括支援センターのヒアリングを行い、皆様方からの助言内容が大変勉強になるという話も伺っております。

今後、地域ケア会議のあり方を検討していく中で、いただいたご意見を踏まえご本人様の状態に応じた適切なアドバイスを頂けるよう検討したいと考えております。(議題 1 資料 20 ページ 7)

《中山部会長》

お口の情報に関してもよろしくお願ひしたい。

《宮本委員(市歯科医師会)》

地域ケア会議の指標が、自分で自立して暮らせるか、食べられるか等2項目くらいしかない。しかしそれは本人の判断で第3者が判断してるわけではないため、実際よく聞き取りしてみると意外と違う場合があるため、ぜひ改善をお願ひしたい。

《中山部会長》

改善できるところは是非お願ひしたい。

《三浦委員(市保育園連盟)》

先生方から歯の定期健診の話があり、人間ドッグは内科のみの検診で歯の定期健診・歯の人間ドッグみたいなものはあまりなく、歯の健康に関しては、まだまだ一般的には意識が低いのではないかとハッとしたところである。今後はリーフレットや大きなポスターとかで、どんどん啓発していただければと思う。

《中山部会長》

三浦委員、非常に貴重なご意見ありがとうございます。

《佐藤委員(県歯科衛生士会)》

・乳幼児期の歯科健康教育動画を子どものむし歯予防として、むし歯菌を移さない、糖分摂取の回数を控えるにする、歯みがきの習慣、フッ化物の利用、危ない口のけが等、10分程度のDVDを制作している。完成後は県歯科衛生士会ホームページからYouTube等で配信するため、三浦委員をはじめ各団体においても、是非活用していただきたい。(議題 1 資料 5 ページ 7)

・乳幼児期からしっかり噛む等の習慣化により高齢期まで、お口の健康がつながり、フレイル予防になる。

・現在コロナ禍の影響により家庭で歯みがきの習慣が乱れたり、学校等の歯みがきが中止になったりで歯科医院の来院時にお口が汚れている状況が多くなっているため、様々な場面での歯みがき指導が大切である。また学校における歯みがき巡回指導がコロナで中止のため、今後はSNSの活用が重要と考えている。

・地域ケア会議における口腔情報については、「入れ歯の有無」等、簡単に口腔のチェックができる「口腔アセスメントシート」を歯科衛生士会のホームページに掲載しているため、ダウンロードして活用していただきたい。(別添 2)

《中山部会長》

DVD やアセスメントシートを、ぜひ市役所の方でも活用して啓発や活動に役立てていただきたい。

《宮本委員(市歯科医師会)》

先ほど三浦委員の方から貴重な意見をいただいた歯科健診について、健康診断に歯科検診の導入を検討しているがコロナ禍で中断している。(医師会病院と済生会病院)。

唾液によるリスク診断後に歯科受診する等、検査や実施方法について今後検討する予定であるため、濱田委員よろしくお願ひしたい。

《濱田委員(市医師会)》

がん部会で口腔がんの話があったが 5 つのがんについて実施しているところ、また、歯科検診については宮本先生が中心となって進められたうえでやっていただきたいと思っている。

議題2 第3次熊本市歯科保健基本計画における「歯と口腔の健康づくりを支え・守るための環境づくり」の令和2年度の進捗と令和3年度取組について

〈事務局〉資料説明

【審議】

《宮本委員(市歯科医師会)》

・熊本市 8020 健康づくりの会はボランティア団体で、以前大西市長に直談判したが、市からの予算は難しいということで、市歯科医師会で少し援助している。ぜひ本日も出席の団体の皆様に活動の協力ができることはお願いして、活動を盛り上げていただきたい。

・啓発について、行政がホームページや市政だより等で実施していることは非常に大事なことが、実際にホームページを隅々まで見る人は少ないので受け身の啓発ではなく、様々な媒体を使って積極的な情報発信を行ってほしい。

→〈健康づくり推進課〉

・熊本市 8020 健康づくりの会に対しては、僅かばかりではあるが今年度から補助金を出すようにしたところでございます。

・情報発信については、ご提案の通りホームページを隅々まで見られる方は少ないと思いますので YouTube や LINE 等、SNS を活用し情報発信を行ってまいります。

《一安委員(8020 健康づくりの会)》

熊本市 8020 健康づくりの会は、令和元年度から育成講座の受講者は千名を超えたが、会員は今、400 人前後で、現実的には各支部において 8020 推進員の数の差があることが課題になっている。

それからもう一つ、推進員は 18 歳以上から募集としているが、60 歳・70 歳が非常に多く年齢的な課題もある。今後は若い人を少しでも増やしていけるような流れを今後作っていかたいかなと思っている。

《中山部会長》

8020 推進員の募集、リクルートはどういった形で行っているか。

→〈健康づくり推進課〉

8020 推進員の募集に関しましては、各区役所やホームページでの募集、8020 推進員が活動の中で声かけして仲間として地域からの推薦、まちづくりセンターや民生委員・児童委員協会等で説明後、募集チラシを配布していただく等、様々なところでお願いしているところでございます。昨年度は、東区の大学のボランティア部に若い人が誕生したところでございます。

《中山部会長》

ほか、例えば熊本市民病院で募集の張り紙とかないのか。

→〈健康づくり推進課〉

市民病院ではチラシの掲示をしていませんが、市歯科医師会様が歯科医院において 8020 推進員募集のチラシを掲示していただいています。

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

- ・今、熊本市で運用されている健康アプリに私も登録しているが、皆さん登録されておられるか。また、登録がどれくらいあるのか。
- ・歯科の項目があるが、アプリを活用した発信とか構造上無理なのか。

→〈健康づくり推進課〉

- ・健康アプリについては、今年度から本市の周辺、宇土市や本市を含む 14 の市町村の連携中核都市圏の共同運用にしたところで、直近のアプリの登録者数は約 41,600 人と伸びています。
- ・健康アプリにおける 8020 推進員の募集は、本市の政策と合致するため、前向きに考えたいと思っておりますので結果については改めて報告します。

〈中島委員(西区市民代表)〉

災害の備えについて、西区の春日校区において「我が家の防災」として「災害時の口腔ケア」や「少量の水ですでできる歯みがき法」がリーフレット(案)から削除されたため、説明・啓発を実施し記載されることとなった。今後この春日校区で作成した内容が西区のリーフレットに反映される方向である。やはり、一般の方は「災害時の口腔ケア」や「少量の水ですでできる歯みがき法」等は、見落とされがちなため、災害の備えとして注意しないといけないと思っている。(議題 2 資料 5 ページ 11)

〈中山部会長〉

非常に貴重なご意見、取り組みかと思う。

熊本大学では熊本地震について災害医療教育研究センターを立ち上げ、地震前後での歯みがき回数の聞き取り調査を行ったが、歯みがき回数は明らかに下がっており、また、お年を召されての方が下がったというデータが出ている。災害時は口腔ケアがおろそかになりやすいという事実はあるため、論文が完成したら皆さんに発信していきたい。

報告 新型コロナウイルス対策に関連した取組について
〈事務局〉 資料説明

【審議】

〈宮本委員(市歯科医師会)〉

- ・日本歯科医師会から口腔内とコロナに関する様々な情報提供を日本歯科医師会のホームページにたくさん掲載している。必要があれば、市歯科医師会の方からも、チラシ等資料の提供はできるためおっしゃってほしい。
- ・口腔ケアでコロナの重症化をある程度防げることは事実であり、なぜ、口腔ケアでコロナをある程度防げるのかを簡単に申し上げたい。現在、日本の成人の 8 割が歯周病を持っているといわれており、「リングをかじると歯茎から血が出ませんか」という CM をご存じの方もいると思うが、出血するということは歯茎が破れているということで、破れていると歯茎から歯周病菌が容

易に体の中に入ってくるため慢性的な歯周病の方は常に細菌や毒素が体中を回っている。その条件下においてコロナウイルスに感染すると、まず、ウイルス性の肺炎を起こすといわれており、そのウイルス性の肺炎で体が弱ったところに 2 次的に細菌性の肺炎を起こし、この細菌性の肺炎が非常に重篤化するといわれている。では、その細菌はどこから来るのかというと口腔内の細菌で、高齢者が誤嚥性肺炎を起こすのも口腔内の細菌といわれている。そのため口腔内をキチンと清掃しておけば、ある程度予防ができ、陽性になったとしても重症化が予防できることが実証されているため、口腔ケアの実践をお願いしたい。

《平川委員(市食生活改善推進協議会)》

簡単な副菜レシピやかむ力をつけるレシピをいろいろ作っているの、皆さんにも活用していただくようお願いしたい。(議題 2 資料 2 ページ 13 15) (別添 3)

《中山部会長》

貴重な資料として活用させていただきたい。

調理実習ができない等あったかと思うが、何か工夫された点とかはないか。

《平川委員(市食生活改善推進協議会)》

・調理実習はなかなかできないが、校区の会員が分担して「かむ力をつける」レシピ等を配布する等の活動をしている。コロナ禍で例年全校区実施している伝達講習会は昨年 23 校区しかできなかったが、今年度は半分の 46 校まで実施するように予定している。

・食生活改善推進員と 8020 推進員を兼ねている会員は多いため、8020 推進員の活動もするようにお願いしている。

《一安委員(市 8020 健康づくりの会)》

・コロナ禍になって、地域で人の集まりができないため、スキルアップ研修会動画や YouTube 配信、リーフレットを一生懸命作ってもう少ししたら出来上がるころである。

大勢が集まらないコロナの時代を考えると、やはり、少人数でも集まって勉強ができるということをやらなければいけないんじゃないかとも考えている。

・先程、事務局から話があったように今年度からいただく助成金を活用して、私たちはリーフレット等を作って、少しでも市民の皆さんのためにできるように 8020 健康づくりの会は頑張っているかと思う。(報告 資料 3 ページ 7)

《工藤委員(市薬剤師協会)》

薬の副作用で、例えば歯肉肥厚があり、それがコロナ禍においての副反応だったりとか考えられる。それぞれの薬局において口腔内への影響がないかを患者様と服薬指導する時に伺い、歯科受診を勧めたり、薬を変更した方がよい場合は先生の方に照会をさせていただいて薬の変更をしている。(報告 資料 2 ページ 3)

《中村委員(私立幼稚園・認定こども園協会)》

・お尋ねだが、議題 1 資料 3 ページ 指標 6 で、3 歳児の不正咬合が増えていると感じられるのだが、原因について教えていただくと園長会の時などに発信できるかと思う。

・二つ目はフッ化物洗口の実施について、私立幼稚園協会であまり普及していないが、私の第二さくら体育幼稚園で 5 月に東区の歯科衛生士から実施方法の説明や洗口剤の調製容器等の提供

があり、6月から年中児110名は食後に、年長児110名は朝、毎日実施している。6月から始めたが1年間でどれ位むし歯が改善するのか、歯科検診でどれ位の効果が出るかを期待している。効果が出れば園長会の時に「フッ化物洗口良いですよ、皆さんやりましょう」と伝えようと思っているが、何かアドバイスがあれば教えていただきたい。(議題 1 資料 7 ページ 14)

《宮本委員(市歯科医師会)》

・不正咬合の原因はたくさんあり、一番代表的なのは指しゃぶり、その他、爪を噛むとかいろんな癖があるため、一概にどれが原因というのは分からないので、歯科医院に相談されることが大事である。

不正咬合が増えているのはいろんな先生の見方がある。特に学校検診の不正咬合は非常にゆく、実は不正咬合で引っかからなかった中にたくさん不正咬合があることがある。

今コロナ禍でマスクをしているがマスクをすると口呼吸になり、歯は唇で押す力と裏側からベロで押す力と均等な位置に並んでいくため、口呼吸で口が開いていると、どんどん出っ歯になってしまうので、マスクの時の呼吸に気を付けてほしい。

・フッ化物洗口の実施は大変だが、やり続けることが大切である。

《佐藤委員(市歯科衛生士会)》

・不正咬合の原因はいろんな癖があるが、平川委員の食生活改善推進員の活動で作成されたレシピの「かむ力をつける」のように、顎の発達のために栄養としっかりと噛む習慣をつけることが大事である。親御さんが子どもさんに食べやすいよう小さく切ったり、軟らかいものを食べさせている中で、自分でしっかり噛んで、もぐもぐ食べることを幼稚園、保育園で先生たちが「もぐもぐ上手だねー」など、お声かけしていただけるとしっかりかむ習慣がついてくると思う。

歯みがきも大事だが、噛むことで唾液がしっかり出て、お口に中をきれいにする自浄作用があるため、しっかり噛むことはいい作用があるよと習慣をつけていただきたい。

・フッ化物の応用について、むし歯予防はフッ化物洗口だけではないので、熊本市で1歳 6 か月児健診時にフッ化物体験塗布(議題 1 資料 4 ページ 3)後に、歯科医院でのフッ化物塗布を継続することでより効果的になることから、保育園・幼稚園、小学校のフッ化物洗口と平行してするといいかと思う。私事だが、幼稚園、小学校でも中々進まない状態で、孫が通っている第二さくら幼稚園でフッ化物洗口をすることを、ぜひいろんなところに広めていただけるといいかと思う。

《岡崎委員(市 PTA 協議会)》

PTA 協議会は約30～50歳代の保護者の立場で活動に取り組んでいるが、先程宮本委員がおっしゃった歯周病からの細菌やウイルスのリスクが口腔ケアの啓発による新型コロナウイルスの予防や重篤化防止につながることを、委員の皆様方からの提供の資料等をしっかりと説明をした上で、意識をもって歯科検診を定期的に受けて習慣づけていくということを強く PR していくことが大切だと思っているので、PTA 協議会でお手伝いしたい。

《中山部会長》

非常にありがたいコメントです。

《宮本委員(市歯科医師会)》

ぜひとも協力していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

《佐藤委員(歯科衛生士会)》

フッ化物洗口の補足だが、1歳 6 か月児健診時にフッ化物体験塗布後、歯科医院でのフッ化物塗布は、定期歯科健診を兼ねて塗布を継続してほしい。

保育園児のフッ化物洗口は週 5 回、小学校は週 1 回の実施を、家庭において続けることが難しい中で、保育園・幼稚園や学校で継続していくと、みんなと一緒に楽しくフッ化物洗口ができて、むし歯予防できることになる。効果はすぐに出てこないが、2.3 年続けることで効果が出てくるので継続をお願いしたい。

日常使われている歯磨剤にもフッ素が含まれているものが多いため、平行して使用していただきたい。

《井手委員(県看護協会)》

・コロナの報告 2 ページ [2] で、熊本市歯科医師会の「歯科は感染力が一番高いと懸念されているが現在まで感染事例はない」と記載されているが、歯科は早めに受診しないと手遅れになるということで受診しているが、この1年半のコロナ禍でも感染事例は聞いたことがない。ほかの循環器や消化器等の慢性疾患にしても受診控えで手遅れになったり、また新たな病気の発見が遅れたりすることが一番大変なことになる。今回の歯科検診や受診も感染対策をしているから大丈夫だよということをもっと広めていただくと良い。

・検診は、学童期までは手厚い支援があるが、高校生、成人期になったら自分の意志でいくしかないため、検診・受診はとっても大事になってくると思った。

《宮本委員(市歯科医師会)》

・お褒めの言葉ありがたい。日頃から唾液、血液に触れていることから、スタンダードプリコーションと感染対策を実施している。コロナだからと何か特別なことを始めたわけではないが、感染予防の賜物だと思ってより気をつけていきたい。(報告 資料 1 ページ [5])

・歯科検診についても、歯科医院には検診票を中学生までは持ってくるが、高校以上になると歯ごときでクラブを休むなど言われ来なくなる。歯科受診に対する意識の改善もお願いしている。

《中山部会長》

熊本市歯科保健基本計画における進捗状況に関しまして非常に有意義な議論が行われたと思う。事務局におかれてはコロナ禍で新しい日常での歯科保健の推進において大変ご苦労も多いかと思う。今後もそれぞれの団体の皆様と市役所の関係の皆様と連携と相互理解でこの計画の推進を市民のためによりしくお願いしたい。各委員の皆様方、議論をしていただき誠にありがとうございました。

〈事務局〉 閉会

健康くまもと 21 推進会議は 11 月に予定している。